

# 議会だより

News Letter From Hachijo Town Assembly

 八丈町  
No.192  
2019.11.25 発行

議会だよりは八丈町のホームページでもご覧いただけます  
<http://www.town.hachijo.tokyo.jp/kakuka/gikai/gikaidayori.html>



## 「ケアケア交流講座」 家族介護教室



誰もが笑顔になり楽しく学べる講座です

ケアケア交流講座は、町が介護の方法や予防、健康づくり、高齢者の福祉など、知識と技術をわかりやすく伝える講座です。今回は参加者が地域包括支援センターの方や他福祉施設で働く職員の方々と交流を図りながら、健康寿命を延ばすための講座を行いました。



熱心に受講する参加者のみなさん

### CONTENTS

## どうなる!? 高齢者の移動手段!

- 2P 第3回定例会
- 3P 一般質問(9月定例会)
- 10P 質疑より
- 11P 令和元年町村議会広報研修会  
島内見学レポート

この度新しく議会の仲間になりました。

金川孝幸議員  
無所属 1期



# 第3回定例会 令和元年9月2、3日

## どうなる！？ 高齢者の移動手段！

初日、議場の傍聴席は、八丈島婦人会の方々に埋め尽くされ、いつになく華やいだ雰囲気の中で始まりました。今後も、多くの町民の方々に傍聴していただき、町政への関心の向上と議会の活性化に繋がると嬉しいです。

今回の一般質問では、ゴミ処理の問題や、防災・減災対策、ICTの活用等の他、町長選を間近にひかえている町長に対し、町政4年間の総括並びに今後についての質問がありました。人口減少・高齢化、新クリーンセンターの建設等、町政は課題山積みの状態であり、議会でも活発な議論が求められるところです。

また、今回の議会では平成30年度公営企業会計決算が提出され、認定されました。

監査委員による決算審査意見には以下のような指摘がありました。

### 平成30年度公営企業会計決算額 (単位：円)

	収益	費用	純利益
水道事業	535,155,262	532,828,285	2,326,977
	収益	費用	純損失
バス事業	153,995,393	157,630,847	3,635,454
病院事業	1,229,205,058	1,329,372,695	100,167,637

◎ **水道事業** 給水人口・戸数とも減少しており、厳しい経営状況が予想されるため、将来の為に先を見越した経営の合理化を図っていかねばならない。

◎ **バス事業** 貸切収入が減ってはいるが、まだまだ好調。しかし、同じ地域からの貸切では数年で乗客の減少につながり、催行が難しくなる。他地域からの誘致にも更なる努力が必要。また、運転手・バスガイドの体調管理にも気をつけてもらいたい。

◎ **病院事業** 厳しい経営状況である。医療スタッフの確保は非常に難しい課題であるが、病院の生命線なので採用に向け更なる努力をお願いしたい。また、病院の建物は20年以上経過しているため定期的な検査を行い、計画的に修繕し、施設の延命化に努めてもらいたい。

公営企業で利益を出すのは難しい課題ですが、経営を安定させたいものです。

最後に、発議として「高齢者の安全運転支援と移動手段の確保を求める意見書」が、提出議員を含め議員全員の賛成を得て議長宛に提出・可決されました。この問題については、一般質問でも質問されましたが、骨子は以下の通りです。

- 1 安全運転サポート車や後付けペダル踏み間違い時加速抑制装置の普及と高齢者の購入支援策の検討
- 2 安全運転サポート車に限定した免許の創設と条件付き運転免許の導入の検討
- 3 地域公共交通ネットワークの充実と高齢者の移動手段確保のためのタクシーや公共交通機関の割引制度などの支援

高齢化率が40%を超えた八丈島にとって、この意見書が国へ提出され、一刻も早く高齢者の交通事情改善に繋がる一歩となるよう期待しています。

(山下則子)

意見書とは…  
町村の公益に関することについて、町村の議決機関としての議会の意思を決定して、国・県等に表明するもの

傍聴にいらした皆さんより 9月議会には、多くの方が傍聴にいらしてくださいました。

#### ● 定例会

**婦人会の皆さんより** 多くの議員がゴミ問題について議論している事を、大変心強く思いました。婦人会でも「分別、水切り、コンポスト」を合い言葉にゴミ問題に取り組んでいます。未来のためにも、議会と一緒にゴミ問題を考えていきたいです。

#### ● 臨時会

三回目の傍聴です。ちょっと町側の歯切れが悪いです。質問者ももっと活発に意見を言ってください。緊張感をもってほしいです。(居眠りをしている人がいました。)

二回目の傍聴です。頑張っていると感じた。

# 一般質問

9月2日  
質問者7人

9月定例会では、町政全般へ7名の議員が13項目にわたる一般質問を行いました。掲載した原稿については、質問議員が作成しています。なお、紙面の都合上、質問内容、回答ともに要約したものととなっておりますのでご了承ください。

質問の録画映像はインターネットでもご覧いただけます。

<http://www.town.hachijo.tokyo.jp/kakuka/gikai/movie/movie304.html>

氏名	質問項目
宮崎陽子	5G時代に向けたICTの活用による社会課題の解決について
山本忠志	町民の健康増進事業の更なる充実を 坂上地区の防災・減災対策を早急に
菊池良	八丈町の防災体制について
山下則子	高齢者の移動手段の確保を ごみ分別に対する町民の意識改革の推進を
沖山恵子	小中学生のオリンピック・パラリンピック観戦に補助ができないか ゴミ分別方法のチラシを新しく作り、配布する計画はないか
岩崎由美	プラスチック製品の減量化を 海難事故をゼロに 山下町制の4年間の総括と今後について伺う
廣江才	八丈島に移住し、働きながら定時制で学ぶ生徒たちについて ペースメーカーの電池の取替えについて



宮崎陽子議員

所要時間 13分

## 【5G時代に向けたICTの活用による社会課題の解決について】

**問** いよいよ2020年春から始まる5G時代が到来。平成時代から急速に進化した通信業界。東京都の島、八丈島で理解を深め、必要なところに予算を補うようにするには、まず、無駄な経費削減をする事が重要である。予算の確保を行い、多くの社会課題の解決に繋ぐ事を第一目標とした政策立案について質問する。

今年8月に、都内で開催された、議員と自治体職員限定のICT推進会合に出席し、実際

に導入1年で効果を発揮している検証結果を基に様々な議論を行った。今、全国180以上の自治体での実績から、八丈町でも今後の取り組みに繋がるように、経費節減だけでなく環境負担低減をはじめ危機管理対応の向上、そして情報伝達の迅速化等、優れた効果が期待できる。大切なことは、第一に議会の合意形成のために実際にタブレットを体験し、検討期間を設ける事が必要。ICTを導入した自治体で一番役に立ったことは、災害時に効果的な連絡手段が行えたことが、特に大きな実証となっていた。業務効率化が断然アップするタブレットはまさに持ち歩ける図書館であり、今では子供達や障害のある方々にも、全国的に活用が広がっている。誰にでも優しく使える文明の利器の素晴らしさを是非、体感してもらいたい。私が先決なので、私は、有識者とのコンタクトを図り、今後、八丈町議会関係者による初のタブレットを無料体験する勉強会の日時を決定した。八丈町で5G次世代に

向けてご理解を求めていきたいので今後の見解を改めて問う。

**答** 企画財政課長 八丈町においてもICTは様々な分野で活用されており、行政運営に必要不可欠なものとなった。今年度から業務効率化のため、財務会計システム導入にも取り組んでいる。また、東京都との連携という点において電子自治体の構築や地域情報化の推進にも取り組んでいる。一方で情報システムには多額の経費がかかっており、コスト削減が課題になっている現状である。その中で島しょ町村では、将来にわたって安定的な行政運営を継続するため、共通事務の共同処理を推し進めるための合同の検討会を設置した。情報システムも重要なテーマとなっているのでシステムの共同化についても今後検討していく。

国においては、少子高齢化や地方の過疎化等に伴う社会課題について、デジタル化で解決出来る部分が大いとして、society5.0の実現に向けて取り組むと共に行政のデジタル化を推進していく事を掲げている。マイナンバーカードの利用もあり、今後範囲もいっそう広がっていくものと考えている。町としてもICT活用について時代の趨勢と共に行政サービスの向上、業務効率化、コスト削減、また新たな情報発信手段等様々な観点から検討しなければならないという認識である。宮崎議員からご提案があったものを含めて全庁的なものとして研究検討していく。



山本 忠志 議員

所要時間 33分

## 町民の健康増進事業の更なる充実を

今年上半期、町では多くの貴重な人財を失ってしまい、予防医療の大切さを実感した。

今年度、町は島外でのがん検診無料実施等、健康増進事業に取り組んでおり、その努力には敬意を表するが、更なる予防医療を充実させるべく以下の3点を伺いたい。

**問** 今年度実施した「健康診査・がん検診」の受診率はどうだったか。

**答** 福祉健康課長 特定検診の受診率は、31.0%（前年比+2.6）。胃がん検診は、16.3%（-0.2）、大腸がん検診は、15.9%（+0.2）、肺がん検診は、25.7%（+1.0）であった。

国や都では50%の受診目標を掲げているが、町では平成26年度の受診者から250名増加させることを目標としている。

**問** 平成30年の「健康診査・がん検診」の際にアンケート調査を実施したが、その結果をどのように考察し、今年度はどう反映させたか。

**答** 昨年度のアンケートは976名から回答があり、胃の内視鏡検査希望者は531名（54.4%）で、この中の約5割強の方が島内の受診を希望していたが、検査会場の確保、完全予約の必要性等の検討事項が多く、今年度は内視鏡実施を見送ることとした。

**問** 町立八丈病院小児科医師の長期安定採用の見通しはどうか。

**答** 病院事務長 小児科医師については、来年度から常勤での勤務を希望している医師がいるので、諸条件を調整しながら採用に向けて取り組んでいく。なお今年度中の臨時医師は、ほぼ確保できている。

## 坂上地区の防災・減災対策を早急に

**問** 今年の梅雨は雨量が多く、島内各地で土砂災害が相次いだ。

特に、坂上地区では崩れた土砂のせいで道路が寸断され、住民の生活に支障をきたすと

ともに不安も広がっている。

本年3月、東京都の調査による八丈町の土砂災害警戒区域は、562ヶ所。そのうち356ヶ所（63.34%）が坂上地区に集中している。

坂上地区の防災・減災対策は喫緊の課題であり、早急に進めるのが順当と考えるが、町の考えを問う。

**答** 総務課長 土砂災害防止法に基づく特別警戒区域とは、民家に影響を及ぼすであろうという地域指定であり、それ以外はデータに表れにくいという八丈島の特性がある。

故に町は、坂上地域に限らず島内全域に対して強い危機感を持っている。

しかしながら、昨年11月に実施した特別警戒区域の説明会の参加者は200名程度にとどまり、また、今年7月の大雨警報発令の際に島内各地に自主避難所を設けたが、避難者は0名であり、町長はじめ我々は強い危機感を感じている。10月の広報とともに土砂災害ハザードマップを配布する予定なので、自宅周辺の危険について認識を深めていただきたい。

また、この特別警戒区域の発表に伴い、都は砂防事業等のハード事業を、町は10月5日の防災の日の避難訓練や災害への普及・啓発等のソフト事業を推進する予定である。

その一例として、7月30日、町は、坂上の道路が寸断され孤立したとの想定で、調査船(たくなん)を利用した救助訓練を関連機関と合同で実施した。



菊池 良 議員

所要時間 13分

## 八丈町の防災体制について

近年、太平洋岸での巨大地震等の発生が危惧されており、また台風等の進路についても

今まで予測されないような進路を取るものが多く見られている。

八丈町でも大雨等による被害もでており、島民の防災意識を高める手段が必要であり、かつ直接対応に当たる事になる町職員・関係者に対しても、意識レベルを高める必要がある。また細かい対応等も普段から準備していく必要があると考える。そこで伺う。

**問** 災害発生時の町の各担当部署を決めていると思うが、住民への周知徹底がまだまだ不足しているように思われる。現在の各課の表示板の下か横にでも災害発生時の各担当部署の明示をする等、普段から住民・職員も含めて周知する方法をとり防災意識の上昇をはかれないか、検討してみてもどうか。

**答** 総務課長 非常配備体制で、各課の役割が通常と変わる事はない。新庁舎に変わった時点で各課直通の電話番号を設けたがなかなか周知出来ていない。自治振興委員の集い等、今後様々な場面で、住民の皆様にも周知して行きたいと考えている。

**問** 現在八丈島警察署にはガソリンスタンドが設置されており、災害時でも燃料補給等の対応が出来るようになっていると聞く。八丈町消防本部においては、現在の対応等はどうか。もし燃料等の補給に支障が出るような状況にあるとすれば、今後の対応が出来るような計画等はあるのか。

**答** 消防本部に町独自の燃料補給施設はない。緊急時には、八丈町全体としての話だが、災害時に備えて島内の各スタンドとの間で「災害時における石油燃料の供給に関する協定」を結んでいる。緊急車両は、優先的に燃料補給できる体制がある。

**問** 災害発生時に一番問題になるのは、ライフラインの問題である。身近なものではトイレ等だが、個人宅が使えない場合の対応として臨時トイレの設置等が考えられる。そして島内各所にある公衆トイレも非常に重要なものになる。災害発生時にも、公衆トイレは使えるように対策をしているのか。またしてい

ないのであれば、今後検討はしないのか。

**答** 公衆トイレは災害対応時に備えていない。洋式の便器であれば、簡易トイレはすぐ作れる。また普段から水の汲み置き等、日常備蓄を勧める。

**問** 先ほど消防本部車両の燃料補給の関係を聞いたが、町の一般庁用車について、現在の燃料補給体制の現況は。災害はいつ襲ってくるかわからない。もし、特に規定がないのであれば、検討してほしい。災害時の燃料補給については、東日本大震災の事例を見てもわかるが、一般車、公用車区別なく厳しくなる。そこで普段からある程度の燃料量になったら補給を義務付け、絶えず満タンの状況に近づけておく体制をしておき、発災時に備えるという事が出来ないか。

**答** 普段から災害に備え、ガソリンの満タンの指示を行っている。対策会議等でも確認徹底している。



山下 則子 議員

所要時間 17分

## 高齢者の移動手段の確保を

昨今、高齢者の運転事故の報道が相次ぎ、大きな社会問題として報道された。

八丈島では、買い物・通院・金融機関に行くための交通機関は、生きていくために欠かせないものであるが、町の公共交通機関は十分とはいえない。

この5月には、町の高齢化率が40%を超えた。

**問** これらの現状を踏まえ、高齢者の移動手段を確保するため、町はどの様に考えているのか。

**答** 福祉健康課長 支援策として、法体系の中での限定ではあるが、社協の安価な移送サービス、重度心身障がい者の方にはタクシー利用助成制度がある。また、町の公共交通機関である町営バスの停留所は、病院・商店・金融機関・官公庁など生活に必要なところは網羅している。上記の制度にあてはまらない高齢者の移動手段については、シルバーパス等積極的に利用してバスでの移動をお願いしたい。

今後、実態にあった対策を各関係機関と協議検討して確保に努めていく。

**問** 町の商店でも高齢化に向けた努力をしている。そこで、例えば重度心身障がい者の方に配布しているようなタクシー券を配るのはいかがでしょうか。少しでも負担の軽減になると思うが。

**答** タクシー助成は、今ここでやりますと言える話ではない。今後検討していく。

## ゴミ分別に対する町民の意識改革の推進を

八丈町クリーンセンターの視察で驚いたのは、燃やせるゴミの約45%が紙ゴミであることと、おびただしい金属ゴミが混入していたことだった。ゴミに対する意識改革の必要性を痛感した。

**問** 新クリーンセンターが完成するまでの数年間を、新施設の延命化の為に「ゴミ分別強化キャンペーン期間」と位置付け、全町民挙げてゴミの分別意識向上に取り組んではどうか。

**答** 住民課長 ゴミ減量の啓発の取り組みとして、坂上地域での定期総会や婦人会総会での分別・減量化・排出抑制のお願いや、小・中学生の施設見学・ゴミ問題のポスター募集、ゴミ処理問題協議会の広報掲載など普及推進している。新施設の延命化のためにも、燃やせるゴミの分別収集は重要と

考える。

今年度、ゴミの分別・減量化の手引きの冊子、ゴミ分別区分表を改訂し配布することになっている。「分ければ資源、混ぜればゴミ」と言われるように、発生の抑制・再使用等必要な情報を提供していく。



沖山 恵子 議員

所要時間 23分

## 小中学生のオリンピック・パラリンピック観戦に補助ができないか

2020東京オリンピック・パラリンピックに都内の小中学生を招待するという話があり、島内の小中学校も参加の方向と聞いた。小学校は移動教室等の振り替え等で対応するらしく、保護者の費用負担も特に増加する事は無いが、中学校は別の上京行事の振り替えは出来ず、新たな旅行として全額保護者から集めると聞いている。保護者の負担が大きく費用が工面できず行けない生徒が出てこないか心配だ。

**問** 実際はどのような計画なのか。町としての補助を考えているか。

**答** 教育課長 都内学校の児童生徒に観戦機会を与えることを目的とした都の事業で、暫定的に小学4～6年生が8月末のパラ水泳、中学1・2年生がパラバスケットのチケットと宿を確保したと連絡があった。保護者の負担が少なくなるように支援する予定だが、詳細や都と町の分担がまだ分からない。分かり次第何ができるか検討する。

## ゴミ分別のパンフレットを配布できないか

ゴミ焼却場を見学したところ、3日分の焼却灰から湯船一杯ぐらいの金属ゴミが見つか

るという説明を受けた。以前から燃えるごみに金属が混じっていると聞いていたが、実際に見ると間違っただけに入っただけでは多すぎる量と内容だと感じた。

私は毎回ゴミ分別方法の一覧表の絵と曜日を確認しながら、分別をして出している。缶といっても缶詰とジュースの缶は出す日が違う。真面目に細かく分別するには見ないとできない。今は正しい出し方が分からずに、混ぜて出している人がいるのではないだろうか。

**問** 10月から発泡スチロールの回収が始まる。この機会に一覧表を刷新し、全戸配布して正しいゴミの出し方をPRしたら良いと思うが、町の計画はどうなっているか。

**答** 住民課長 補助金の関係で発泡の回収開始は遅延しておりお詫びして訂正する。また、その際新たな一覧表と冊子を刷り配布する予定。

**問** 広報を見ない人や転勤者もいる。問題解決のためには、何度も配った方が効果的だと思うが何回配布するつもりか。大量に印刷すれば予算がかかるが、一番安いのは住民が正しく分別して出す事。新クリーンセンター稼働前に正しい分別と出し方の意識改革をした方が、炉も痛まず長い目で見れば安くすむのではないか。

財政が苦しい中、町の行政方針は補助金を元に常に今一番安い方法を選択しており、長期的ビジョンが感じられない。リサイクルも補助が出ると行い、終わるとやめる。住民はその度出し方が変わる。「八丈町はこれで行く」という柱を作って長期間同じことをして欲しい。

**答** 新たな住民には、手続きの際に渡しており、広報にも分別の基礎知識をのせている。出し方の一覧表の内容や折り込み回数は必要に応じて今後検討する。





岩崎由美議員

所要時間 32分

## プラスチック製品の減量化を

マイクロプラスチック問題はもはや危機的状況だ。自然から多くの恩恵を受けている八丈町としても、この課題に取り組むことが急務である。

**問** 東京都はこの問題について「会議・イベントでの廃プラ削減」や、廃棄物審議会での最終答申を夏までにまとめるとしているが、詳細は。

**答** 住民課長 都に確認したが、現在のところ未策定。審議事項は、使い捨てプラスチックの大幅な削減と、再生プラスチック製品の利用拡大の2点。

**問** プラスチック類の減量化について、町の施策は。

**答** 休止していた発泡スチロールトレイの収集を令和2年度より開始する。具体的な施策としては、町内流通、また容器包装の削減、必要性の低い使い捨て容器の制限、ペットボトルやレジ袋、詰め替え商品の推奨などが考えられる。経済活動も考慮し、町に合致した排出抑制減量化の推進などの施策を今後検討していきたい。

**問** 直ちにとすることは難しいが、町が関わるイベント等で、プラスチックから紙に変える方法、デポジット方式で食器をレンタルする方法、マイ食器を持参する方法など、プラスチックの減量につながる積極的な取り組みを検討しては。

**答** 町のイベント関係のプラスチック類の排除は、当然段階的な取り組みになると思う。たとえば20%とか50%とか減らしてゆき、まずは紙容器への変更、さらに進めて

マイ容器の持ち込みなどといった段階的な取り組みをしていきたい。

## 海難事故をゼロに

**問** 海のレジャーには危険が伴う。底土海岸では2年連続して死亡事故が発生した。背景には監視員が海中での救助活動が行えないという現状があるが、町の今後の対応は。

**答** 産業観光課主幹 この7月に残念ではあるが死亡事故が発生してしまった。ライフガードの活用も検討しなければならない。業者に見積もりをとり、来年度に向けて相談させていただきたい。

## 山下町政の4年間の総括と今後について伺う

**問** 持続可能な八丈町にするために、どのようなお考えをお持ちか。

**答** 町長 行政経験を町政に活かしながら、八丈町の発展に努めたいと考え、全力で走ってきた。航空運賃の低廉化、地熱発電の新たな展開、農業漁業の基盤整備、スポーツ誘致を含めた交流人口の増加、三根公民館の建替えなど実績を納めたと自負している。人口減少は最大の課題。ヒト、モノ、カネの動きを活発化させ、攻めの政策を展開していきたい。知恵を出し、創意工夫、企画し、制度を当てはめるか。農業、漁業、それに伴う観光関連産業の振興というのが私の基本的な考え。

**問** それぞれの事業はあると思うがビジョンは。今後八丈町をどんな町にしたいか。

**答** ビジョンがないと言われるが、事業に迫られてこのような形になってる。島の宝は「自然の恵み」。自然の恵みを受けながら、島を発展させていきたい。地域コミュニティが薄れてきている中で、子どもたちが育ち、郷土を思う地道なソフトの部分が一番大事。各地域のまつりなどで、島外者も子どもも一緒になって世代間の交流を図

り、活性化していく、そういうことをビジョンとして持っている。



廣江 才 議員

所要時間 22分

## 八丈島に移住し、働きながら定時制で学ぶ生徒たちについて

**問** 未成年者の彼らが、親元を離れ移住し、働きながら学ぶ姿勢には感服する。それぞれに事情はあると思うが、早すぎる自立生活はハンデを伴うと思う。まず、住居の問題がある。町の空いている住宅に申し込んでも、国の指針から未成年という縛りがある。こうした状況を町は見過ごしていいのか、町の姿勢が問われるところである。

**答** 教育課長 現在、移住者の定時制高校生は6名。入学時、住居や就業など生活面に関しては保護者と本人の責任において整えるとのことだ。八丈高校は東京都の所管であり、教育委員会としては、寮を完備する予定は現在のところはなく、八丈高校に委ねたい。

**問** その辺の事情は理解している。しかし、こうした「ハザマ」にいる未成年の就学移住者に対し、町はどう捉えているのか。町は定住移住の促進を行っている。そうした立場の人にも細やかな対応をしなければならないと思うが、その辺りを企画財政課にお尋ねしたい。

**答** 企画財政課長 町として、高校生の保護者とも打ち合わせている。ただ、行政として、個別的に就労や住宅の斡旋をする訳にはいかない。そこで、空き家バンクを早急に進め対処したい。また、彼らは多感な時期でもあり、民間組織でサポート事業を立ち上げるといった情報もあり、町は彼らと連携してサポートしたい。

**問** 空き家バンク事業を待たなくても縛りのない住宅を得ることは可能ではないか。住宅関連の予算ではなく、知恵を借り、あらゆる方面から検討すれば別科目で予算を確保することは可能であると思う。われわれも積極的に行動したい。それらを踏まえ、改めてお尋ねしたい。

**答** 彼らは高校生でもあるが一般社会人でもあり、他の移住者と同様に捉えたい。現在、移住者の支援組織が生まれつつある。空き家バンク構想を含め、町全体の問題として移住定住化を推進して行きたい。

## ペースメーカーの電池の取り換えについて

**問** 現在、ペースメーカーを装着されている住民は何名か。電池を使用している以上、必ず取り換えなければならない。町立病院で治療できない以上、島外治療に頼るしかない。生活だけでも精一杯の住民もいる。そうした住民にどう対応しているのかお尋ねしたい。

**答** 福祉健康課長 町立八丈病院で現在把握している人数は15名ないし16名で、電池の交換時期は通常4年から8年、最新のもの10年。ペースメーカーを装着された方は、身体障がい者手帳の交付対象者となるため、現在、町で実施している島外医療機関通院交通費補助金の申請の際に医師の証明書は必要なく、片道分ではあるが、航空運賃補助の対応をしている。

**問** 人によっては介護タクシー、付き添いが必要な場合もある。もちろん、町ですべてが出来るとは思わないが、そうした面に目を向けてほしい。本来なら病人であれ、富裕な人々には運賃の補助は不必要だとさえ思う。むしろ、本当に必要とする人々に補助すべきだと考える。

**答** 現事業は町の単独事業として各方面から認められている。ただ、そうした事情を抱えた住民に対して、丁寧に対応できるように検討したい。

# 質疑より

9月定例会では平成31年度一般会計、病院事業会計の補正予算が上程され、質疑が行われました。主な内容を抜粋、要約して掲載します。

## ● 八形山のリサイクルヤードは



浅沼隆章 議員 八形山のリサイクルヤードはいつからどのような形で開始するのか。

住民課長 7月から毎週1回、日曜日に再利用ができるものを受け入れる。詳しくは広報8月号に記載。

## ● 幼児教育・保育の無償化に伴う財源確保は

山本忠志 議員 幼児教育・保育の無償化に伴う財源確保は。

福祉健康課主幹 国からの情報をまとめるのが厳しい現状。わかり次第予算に計上したい。

## ● 島誌の編纂について

岩崎由美 議員 島誌の編纂についての進捗状況は。他の島できて八丈島でできないというのは悲しい。文化や歴史を大事にしない自治体は宝を失っていくのではないかと。70周年にこだわらずしっかり計画的に進め、宝を残していくべきだ。当初、協議した研究者とは予算面で合意できなかったのか。

教育課長 最終的に予算面で当初のプロジェクトチームと合意が出来なかった。東京都の協力を得て駒沢大学に委託することになった。70周年記念を目途に刊行するのではなく先を見込んで確実なものを作るという計画に変更をした。今年度は東京都公文書館の古文書の破損状況調査と写真撮影などでデジタル化を委託。

山本忠志 議員 この件に関し、主体性がないというか疑問を感じる。昔のことを知ってい

る人はいづれなくなっていく。

教育課長 古文書等の破損状況を調べて修繕が必要なものがどのくらいあるのか、それによってその後の年度事業計画なども決まってくる。まずは破損の修復が必要なのかどうかについて調査の方を進めたい。全部終わった段階で初めて中の解読、翻訳といった作業が発生してくる。

## ● 宝物ブランド観光振興事業補助金とは

廣江 才 議員 宝物ブランド観光振興事業補助金とは。

産業観光課主幹 東京都の支援をうけて観光協会、観光事業者とも協議を重ねてきた。まずは「ロングサマー」、「女子旅」などのブランド化に取り組む。焼酎などの物産を作るものではない。

## ● 病院の歳入減の原因は

沖山恵子 議員 病院の歳入減の原因は。

事務長 施設基準を満たさなかったことにより減収となった。入院料の請求は、直接的な医療行為と施設基準の2つの要素を合算して請求する。今回の減収は、看護師と患者のバランスが施設基準を満たしていなかったため。看護師の夜勤の合算が、72時間未満なら通常の点数だが、72時間を超えるとひとつ下の点数しかとれなくなるという厚生局からの指摘によるもの。現在も看護師は不足しているものの、状況は改善された。



# 令和元年度町村議会広報研修会

日時 令和元年9月24日(火) 13:00  
場所 シェーンバツハ・サポー

参加議員 宮崎陽子 山下則子 沖山恵子 岩崎由美



今回の研修では「読者目線で親切な広報紙を作るには」「情報をわかりやすく伝える」をテーマに広報紙作りのポイントや議会だよりの意義を学びました。良いと言われる広報紙は、町民の意見や要望を取り上げ、より多くの町民が議会と町政に関心を持つように努めているそうです。読み手が主体、議会の議事録ではなく、住民が知りたい事を載せ、「読まないはずい！」と思わせる位の広報を作ると良いと学びました。

私たちも、読みたいと思ってもらえる議会だよりを作るよう頑張ります。(沖山恵子)

## 島内見学 レポート

## ヒルサイドガーデン夕陽ヶ丘 「サービス付き高齢者向け住宅」を訪問

2019年8月8日(木) 議会活動の一環として、議員10人で訪問しました。施設長の木村順さん、代表の渡辺彰敏さんは、1時間ほどかけて施設内を丁寧に説明してくれました。昨年できたばかりの建物は、モダンで落ち着いた雰囲気ので30室あり、1人部屋が19室、2人入居可能な部屋(1人でも使用可)が4室、その他7部屋となっています。すべての部屋にトイレと洗面があり、風呂は共有。食堂は広く、オープンキッチン(写真)になっています。ここで、朝と夕の2回の食事が提供されます。

利用料(食事込み)は、最安で1人部屋の約10万円弱。国民年金だけでは不足しますが、それを生活保護の一部利用でまかなうことができます。2人入居可能な部屋では約16万円ほどです。現在は満室で待機が6人いるそうです。

今後の課題として、坂上地域で暮らす高齢者の移動支援と、高齢者の経済的負担を軽減させることができる定額料金の看護小規模多機能型居宅サービスを模索しているそうです。議員に対しては、当事者意識をもって高齢者対策を進めてほしいと強く求められました。健常者から要介護者までのすべての高齢者を受け入れ、あらゆる対応ができる施設を目指しているという姿勢に、町が進むべき方向性を見た気がしました。(奥山幸子)



## 主な議決事項

### 9月定例会 令和元年9月2、3日開催

- ◎ 専決処分事項の報告及び承認について(平成31年度八丈町一般会計補正予算) ほか専決処分1件
- ◎ 平成31年度八丈町一般会計補正予算 ほか補正予算6件
- ◎ 八丈町保育の必要性の認定基準に関する条例を廃止する条例 ほか条例7件
- ◎ 中道伊郷名線道路改良工事(坂下工区)請負契約
- ◎ 平成30年度八丈町水道事業会計決算認定について ほか認定2件
- ◎ 平成31年度八丈町一般旅客自動車運送事業会計資本金の額の減少について

- ◎ 高齢者の安全運転支援と移動手段の確保を求める意見書
- ◎ 議員の派遣承認について(第30回東京都道路整備事業推進大会) ほか承認1件

### 9月臨時会 令和元年9月26日開催

- ◎ 専決処分事項の報告及び承認について(損害賠償の額の決定について)
- ◎ 八丈町副町長の選任の同意について
- ◎ 八丈町職員懲戒審査委員会委員の任命の同意について

## 主な会議事項

### 議会運営委員会 令和元年8月26日開催

- ◎ 令和元年第三回八丈町議会定例会について



# 移住者インタビュー その4

今回は1ターンの方にお話しを伺いました。  
三根在住 沖山 理沙さん



**Q. 八丈島を離れたのは？**  
富士中学校卒業後、高校進学のために八丈島を出ました。

**Q. どんなことをしていましたか？**

叔母の家にお世話になりながら高校、短大を経て、接客業をしていました。

**Q. 八丈島に帰ろうと思ったきっかけは？**

初めは祖父の介護のためです。若い頃は都会の刺激を追い求め、出入りを繰り返しましたが、生まれ育った八丈島

の穏やかに流れる時間が恋しくなった事もそのひとつでした。

**Q. 島ではどんなお仕事を？**

3年前に帰って来てからは、町立病院の窓口業務をさせていただいています。

**Q. 帰って来て良かったですか？**

はい。とても良かったと感じています。子育てをするにはとてもよい環境です。

**Q. 島の暮らしやすい点は？**

全てが身近にあるので、通勤時間など移動時間が短い分、生活にかける時間が多いこと。以前よりネット環境も整っているの、生活面で不便を感じる事はほとんどありません。観光地としての前進も感じます。

**Q. 暮らしにくい点は？**

不便さも受け入れて生活しているので暮らしにくさは特に感じていませんが、敢えて言うなら悪天候時の交通事情。仕方のないことですが、臨時診療が出来なくなったり、長期の船の欠航で物資が届かなかったりすることですね。

**Q. 将来の夢は？**

ゲストハウスを開業したいです。ここ数年で観光客が多くなりましたが、民宿の方たちが高齢化などで廃業し、施設が足りなくなりました。観光客に「また八丈島にきたい」と思っただけのような、おもてなしを届けられる宿を作りたく、日々奮闘しています。

(2019年10月1日 取材者 岩崎由美)

末吉出身 浅沼 碧海さん (31歳)

八高卒業後大学に進学し、震災後の福島で仕事をしました。福島の人は地元愛が強く、そんな福島が大好きになりましたが、地元民ではない自分はお客様としての空気が抜け切れなかったように思いました。地元愛の強い方たちに触発され、僕自身が今度は地元八丈島の発展に力を尽くそうと帰って来ました。今はホテルで接客業をしています。

島の人はとても暖かく、よく帰って来たと居るだけでも喜んで下さり、人間としても認めてくれます。でも古い考えや慣習も根強く、よそ者扱いや、やりたい事も覚悟を決めると重しを掛けてきます。何事も経験しなければ分かりません。

自分は昭和最後の生まれで、地元の人に良くしてもらい、楽しく生きて来ました。時代は変わり人口も減りましたが、今の子どもたちにも良い環境や楽しい行事を提供していきたいと思えます。将来その子たちが島に帰ることが楽しいと思える魅力ある八丈島にしたいです。



そのためにも、島の人と外の人(移住者も観光客も)が親しく語り楽しめるカフェのような交流の場を作ることが、今の自分の夢です。

(取材者 沖山恵子)

## [あしがき]

新企画「町民の声」では、4回にわたって移住者の方々取材しました。旅行で体験した島の自然や人々の優しさが、移住の大きな動機となっていることを多くの方が指摘していました。また島のために何かしたいと戻っていらした若手の人たちには、明るい未来を感じます。

首都圏を除けば、人口減少は全国的に避けられない現実ですが、まずは八丈島に暮らす人々を幸せにすることが人口政策の要であると感じました。さて、移住者インタビューは今回で一旦お休みし、次回からは新たなシリーズを検討中です。皆さまのご意見、ご感想をお待ちしています。 岩崎由美

発行人 八丈町議会議長 奥山 幸子

編集 議会だより編集委員会 委員長 岩崎由美 委員 宮崎陽子 山下則子 沖山恵子

〒100-1498 東京都八丈島八丈町大賀郷 2551-2

tel 04996-2-2788 fax 04996-2-4437 メール gikai@town.hachijo.tokyo.jp

